

農業委員会だより

米をPRして

Vol. 63
令和8年1月号

島根県立三刀屋高校掛合分校生徒が台湾で雲南市の米をPR

11月18日、掛合分校2年生が、台湾で雲南市産米のPRを行いました。
掛合分校の生徒は5月の田植えから刈取りまで、市内の法人の協力を得ながら、つや姫を栽培し、「ゆき姫のまい雪姫舞」として販売をしています。
今年で5年目となり、台湾だけでなく、道の駅での販売、東京の物産館での販売など、雲南市産米を積極的にPRしています。



年頭所感

雲南市農業委員会 会長

嘉本 輝雄 かもと てるお



新しい年を迎え謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年は、異例の暑さに加え少雨も重なり農作物の生育に大きな影響を与えました。今年は異常気象が発生しない平穏な年となるよう願っています。

さて、昨年3月、農業者の皆様や関係者の方々が検討協議を重ね、各地域において10年後に農業の担い手が耕作する農地を示す目標地図を作成し、農地利用を明確にする「地域計画」が定められました。この地域計画は今後随時変更しながら徐々に完成度を高めていくものとされています。農地を含め農業の状況も変化していますので、引き続き地域での見直しが求められます。農業委員会においても、地域計画の実現に向けて積極的に農地利用最適化の推進に取り組んでまいりますので、なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私たちは、この大切な地域を次世代に引き継ぐため、着実に歩みを進めてまいります。皆様には、地域農業の発展、そして所有地の適切な管理について、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。結びに、皆様の新しい年が健やかで幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。

意見書を提出しました

10月24日、令和8年度雲南市農業振興施策に関する意見書を雲南市長へ提出しました。

各委員が地域で活動する中で感じる農業や農家を取り巻く現状や、今後の農地の有効利用に向けた農業委員会活動、そして農業振興施策の改善要望などを12項目にまとめました。主な意見書の項目は次のとおりです。

- 農家への支援及び若手育成について
- 鳥獣害対策について
- 畜産振興について
- 地域課題の解決に向けた連携について



石飛市長に意見書を手渡す様子



11月6日から7日にかけて「中国・四国ブロック農業委員会女性委員研修会」が徳島市で開催され、雲南市から女性委員4人が参加しました。

会です。

研修会一日目は、開催県の徳島県農業委員会女性協議会の活動報告、女性農業委員・農地利用最適化推進委員からの事例発表などがあり、それぞれが特徴ある活動をされている様子里に、私たちには何ができるだろうと考えさせられました。

二日目は農業委員会活動などについてグループ討論を行いました。設定された時間が足りないほど、どのグループでも活発なディスカッションが行われ、盛会のうちに来年開催県となる島根県にバトンタッチされ閉会となりました。

女性委員の登用目標達成にはまだまだ課題のある中で、少しずつでも増えていけばと感じる研修でした。

(農業委員 佐藤博子)



▲グループ討論の様子



▲活動報告の様子

掛合分校生「雲南市のお米」の魅力在台灣へ！

〈4年目のプロジェクトで海外販売を経験〉

三刀屋高等学校掛合分校による「雲南市のお米を応援するプロジェクト」は、今年で4年目を迎えました。これは、地域の協力を

得ながら、生徒たちが主体となって雲南市のお米の認知度向上と販促活動に取り組むプロジェクトで、5月の田植えや9月の稲刈りをはじめ、定期的に稲の生育を観察したり、道の駅で直接販売し消費者アンケート調査を実施したりして、米の生産から販売までを体験する一連の活動を行っています。

11月18日には、修学旅行に併せて台北市内のスーパーで雲南市のお米を試食販売し、生徒たちはスマートフォンなどの翻訳アプリを駆使し、台湾の方へ雲南市のお米の美味しさや品質を懸命に伝え、大盛況に終わりました。

台湾の購入者からは、

「高校生が米を作っているとは驚いた」

「親切で丁寧な受け答えに感動した」

「PVを見て雲南市はとても綺麗な所で驚いた。行ってみたい」

など非常に好評で、一人で2袋購入する方もいました。

生徒からは、

「自分たちが関わったお米に異国で興味を持ってもらえてとても嬉しかった」

「一生懸命伝えて分かってもらえたとき、とても嬉しかった」

「試食で『美味しい』と言ってもらえて嬉しかった」

など喜びと充実感の声がありました。

小川 剛副校長は、

「日本の農産物への関心の高さや具体的な質問の多さに触れた生徒たちは、海外販売の大きな可能性を実感しました。また、予期せぬ事態への対応や熱意をもって魅力を伝えることの重要性が学べ、実践的なビジネス感覚も養え、大変貴重な経験となりました。これらさまざまな経験が、生徒一人ひとりが持つている可能性を広げる契機となることを期待しています」と話されていました。

台湾での米販売に協力いただいた林定三氏からは、

「学生は初めての海外で不安で一杯だったと思う。その中で、



林定三氏（雲南市観光大使）

お米販売では台湾の人が驚くほど知識を持っていて、感動していた。そして、試食した人は皆さん購入していた。農業に興味を持つことで、今後の雲南市の担い手になる事を期待したい」と、高く評価していただきました。

詳しくは掛合分校ホームページへ

<https://www.kakeko.ed.jp/>

令和7年度 しまね農業委員会 女性協議会視察研修会

11月13日、しまね農業委員会女性協議会の視察研修が行われました。今年は大田市の有限会社旭養鶏舎を訪問し、竹下正幸会長にお話をうかがいました。

旭養鶏舎では、昨年10月に鳥インフルエンザが発生し、約40万羽が殺処分されました。大きな被害でしたが、職員の皆さんの尽力により現在は80%まで回復しているそうです。発生後の2週間は本当に大変な作業だったと語られ、現在も令和7年中に85%まで回復させることをめざしていると、企業として大変努力をされていると感じました。

また、衛生管理にも徹底的な対策をしておられ、見えない敵との戦いで対策が非常に難しいと話されていました。工場ではパック詰め作業をガラス越しに見学しましたが、作業される方の手が卵に触れないよう全ての作業が機械で行われており、安全安心を最優先にされていることがうかがえました。

さらに、養鶏事業の他にも、畑でカモミールやエゴマを栽培し出荷するなど多角的な経営をされています。会長が理事を務める、はね宮農組合と協力して栽培し、波根町の平場の耕作放棄地を出さない努力もされています。

他にも、卵を使ったスイーツや惣菜も加工販売されており、6次産業にも力を入れておられます。素晴らしい取り組みに今後ますます楽しみな企業だと感じました。

（農地利用最適化推進委員

太田明美）

竹下会長から説明を受ける参加者



▲パック詰め作業を見学する様子



質疑応答の様子

全国農業新聞を読みますか？

毎週発行：月額700円（送料・税込み） 申し込みは農業委員会まで。

加茂小学校で学校給食

野菜生産者が児童と交流

加茂町の学校給食野菜生産者グループ6人が、加茂小学校4年生の児童たちと一緒に給食を食べる「交流給食」に参加しました。

当日は、生産者1人と児童4、5人が1グループになり、雲南市産のプレミアムつや姫「たたら燐米」や、木次パスタライズ牛乳、学校給食野菜生産者グループが出荷した野菜を使ったおかずなど、地元産の農作物が豊富に使われた給食を味わいました。

食べている間は、児童たちが事前に考えていた質問を次々と生産者にたずねていました。簡単な質問には答えられましたが、例えば「野菜の種は小さいのに、なぜ大きな大根やキャベツや白菜になるのですか」とか「野菜の種は、お店では紙袋に入っています。それを畑に蒔くと芽が出るけど、紙袋の中では、なぜ芽が出ないのですか」など、簡単には答えられない質問もありました。「ええー」と、まさに「チコちゃんに叱られる」に出てくるような質問に、「ボーっと農業してんじやねえよ」と叱咤されているようで、子どもたちに地産地消をきちんと伝えていかなければと気持ち新たにしました。

(農業委員 高橋一裕)



児童の質問に答える高橋委員



野菜の説明をする生産者



交流給食で提供された給食

参考資料：提供教育委員会
令和6年度雲南市給食センターの「地場産野菜」の利用率(重量ベース) 41.9%

老後生活への
備えは十分ですか？

農業者の方は、国民年金の上乗せの公的な年金「農業者年金」に加入して安心で豊かな老後を！

農業者なら誰でも入れる「**終身年金**」です！

一定の要件を満たす方には、月額最大**1万円の保険料補助**

加入で大きな節税効果！保険料は**全額社会保険料控除の対象**

終身年金で
安心！

年間60日以上
農業に従事

国民年金
第1号被保険者

加入
資格

60才未満

詳しくは… 農業者年金基金 検索
<https://www.nounen.go.jp>



令和4年から改正されました。

- ①35歳未満の方は保険料下限額が2万円⇒1万円に引き下げ。(一定の要件あり)
- ②年金受給開始時期が選択できます。(65才以上75才未満で選択)
- ③65歳まで加入できます。(国民年金任意加入者のみ)

※詳しくは農業委員会かお近くのJAへ！

編集後記

昨年(2023年)のいなてひめ60号の表紙で紹介した新規就農者の鶴頭(つるがしら)さんに近況を伺いました。

現在は出荷先も増えて、Aコープ、道の駅たたらば壺番地、さくらの里きすきなどで「ものがたり農園」という独自のブランドで販売されています。リピーターも増えていて、そう、売り上げも順調に伸びているようです。無農薬と手作り肥料の有機栽培にこだわりの日々研究を重ね、「皆さんに美味しい野菜を食べてもらいたい」と語っておられました。

また、鶴頭さんは周辺の耕作されなくなった農地を借りて耕作面積を増やし、できた野菜を地元の方々に配るなど、地域との交流も積極的に行っていて、地域の活性化にもつながっています。

雲南市では、鶴頭さんの他にも多くの新規就農者の方々が頑張っておられます。雲南市の農業の次世代を担う彼らの活動をこれからも応援していきたいと思っています。

(K・O)

